

塗コラム 7月



「方言がある土地は奥が深い…」

みなさん、こんにちは。暑い日が続いていますがいかがお過ごしでしょうか？僕は暑いのが苦手なので、かなりツライ季節です（笑）

さて、山形生活6年目にもかかわらず、県内で行ったことのない場所が、まだありました。。その名も。。「開湯1200年という驚異的な数字！！大蔵村にある肘折温泉です！」

大蔵村は、置賜からだど、あえて行かないと通らない地理ですが、あえて行ってみました。

感想としては、まず、駐車場がわからずに、温泉街まで車で進んでしまいました（笑）道が狭い！小野川温泉の比ではないです。超狭いです。しかーし、地元の人はスイスイ運転するんだから不思議です。

続いて、肘折温泉にたどり着くまでは、なかなかの山道です。最後に鉄筋の赤いきれいな橋を降りていくと、まるで、今と昔をつなぐ時空の扉のような感覚です。わけわからんですか？（笑）写真にあるように、昔ながらの温泉街に、橋だけ最新！ということですね。

温泉街を歩くと、観光客も大勢いて、何と言いますか。。ジブリの世界。。千と千尋（笑）HPを見ると、伝わるとおもいます。肘折温泉で検索してください。

今回の旅で感じたのは、山形県はあらためて不思議な土地だと思いました。置賜、最上、村山、庄内とわかれていながら、温泉は共通していて、けど、文化も方言も違う（笑）これは、特色あって探検したくなるわけです。

地域により人柄も違うというけれど、それは米沢と最上でも違うでしょうね～。協力隊の時に県内の色々な人と会ったので違うなーと思いましたね。

山形市にある博物館になぜか、よく行きます（笑）恐竜の骨とか、鳥の剥製を見るのが好きなのです。で、山形の特色を紹介する展示があって、そこには「上杉鷹山」と「保呂羽堂の餅つき」が数ある置賜の人物や行事の中で、選びに選び抜いて展示されています。「保呂羽堂の餅つき」は置賜の人にとって、どのくらいポピュラーなんでしょうか？若い人は知らないかもしれないです。けれども、置賜の代表的な行事として博物館に展示されていれば、県外の人には「山形＝さくらんぼ」と同じくらい納得してしまうでしょう。これぞ特色！！

県内には、肘折温泉をはじめ、探検してみると、その場所ならではのおもしろさや魅力があるので、まだまだ探検したいですね。

個人的に確信していることは、「方言が違う、つまり、言葉が違うというのは、それだけ、その地域が独自につないできた歴史と文化と風習がある」という事だと思えます。だって、東京都と大阪は違いすぎるから（笑）だから、置賜と庄内も違うんだな。。ぜったい！！